

えんちく PTA 連合会

PTA 会報

えんちく PTA は塩尻東筑摩の各地区単位 PTA を応援する会報誌です。



写真：塩尻市立塩尻西部中学校 「地域で生き生きと働く方へのインタビュー」
撮影日：2025.6.20



写真：生坂村立生坂小学校 「運動会のラスト 地域の皆さんと一緒に生坂音頭」
撮影日：2025.6.1



写真：塩尻市立塩尻西部中学校 「孫の手プロジェクト 夏休み学習広場」
撮影日：2025.7.24



写真：生坂村立生坂小学校 「いくさか学 灰焼きおやき 灰をかぶせる」
撮影日：2025.7.1

『子どもの豊かな未来づくり』
～共に学び・語り・育てよう～

2025
12月号

東筑摩塩尻 PTA 連合会報 No.48

<http://enchiku.net/>



第57回日本 PTA 関東ブロック研究大会ながの大会全体会・
第5分科会

シリーズ

「私達の学校紹介」山形小学校

「学校給食レポート」広丘小学校

「いっしょに学ぶ」塩尻西小学校

「E コラ」広陵中学校

第57回日本PTA関東ブロック研究大会 ながの大会



令和7年10月18日・19日、ホクト文化ホールを主会場として、「第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会」が開催されました。

初日は、県内7会場を中心に分科会が行われ、各地で活発な意見交換がなされました。2日目には、ホクト文化ホールにて全体会が開催されました。

全体会では「子どもたちと地域のウェルビーイングの実現に向けて」をテーマに、長野県教育委員会 教育長・武田氏、長野県PTA連合会 会長・城村氏、そして県内の小中学生代表3名によるパネルディスカッションが行われ、子どもたちの声を交えながら多角的な視点で議論が展開されました。

また、放送作家の野々村友紀子さんをお迎えし、「強く生きるためのヒント」と題したご講演をいただきました。大会スローガン「結（ゆい）～笑顔で未来をつくる～子どもと一緒にウェルビーイングの実現を信州から～」につながる、心に響く素晴らしい講演でした。

2日間を通じて、非常に有意義で充実した大会となりました。

顧問 北沢 寿明



日本PTA関東ブロック研究大会 ながの大会第5分科会

開催日：10月18日（土）
場所：塩尻市総合文化センター

（共同開催）東筑摩塩尻 PTA 連合会研修会 概要 10月18日開催



今年度は関東ブロック研究大会ながの大会第5分科会が中信地域での開催となり、東筑摩塩尻 PTA 連合会研修会について分科会との共同開催として実施しました。当連合会の単位 PTA のみなさまをはじめ、中信地域の大北・安曇野・松本市・木曽の各連合会からのご参加もいただきました。発表内容や講演内容についての活発な意見交換もあり貴重な学びの機会を持つことができました。

会長 鈴木 暢生

分科会（郡 P 研修会）概要

塩尻市総合文化センターで開催された第5分科会では「結～学校・家庭・地域が協働し子どもたちを共に育てる環をつなぐ地域連携活動～」をテーマに、県内外から133名に参加いただきました。長野大学の早坂教授による講演「どうすれば私たちはつながれるのか～個人と社会のウェルビーイングの実現を目指して～」をはじめ、塩尻市立広丘小学校、筑北村立聖南中学校、大町市立大町西小学校、新潟市立新通つばさ小学校の各 PTA の事例発表のほか、早坂教授と発表者によるパネルディスカッションが行われました。塩尻市立塩尻西部中学校からは運営ボランティアとして3名の生徒に受付をお手伝いいただきました。

副会長 齊藤 恵



私達の学校 紹介します

山形村立 山形小学校



児童・児童数 421 人（10月1日現在）
校長 百瀬みさ子 PTA会長 桐原貴弘
住所：長野県東筑摩郡山形村 3867



しだれ桜と音楽の授業

長野県東筑摩郡山形村にある山形村立山形小学校は、豊かな自然と穏やかな村の風景に包まれた小学校です。

明治19年(1886年)に創立され、130年以上の歴史をもつ伝統校として、地域とともに歩んできました。

標高約690メートルの地にあり、前庭には樹齢百年を超えるしだれ桜があり、春には満開の花が子どもたちを迎えます。

自然とともに学び、地域の人々に見守られながら育つ環境が、本校の大きな魅力です。

教育目標は「なかよく・かしこく・たくましく」。友だちと助け合い、考える力を育て、心も体もたくましく成長することを大切にしています。

児童会活動や運動会、音楽



学びの発表会

会など、子どもたちが主体となって取り組む行事も盛んで、学年を超えて支え合う姿が見られます。

地域とともに学び合う「共育の日」は、今年度から「遊びの広場」と名称を変え、11月に開催されました。PTAや教育委員会、社会福祉協議会が共催し、地元の方を講師に招いて酒粕石鹸づくりや水引を使ったストラップ作り、ダンス教室、お菓子作り教室などいろいろな企画がおこなわれ、保護者や地域の皆さんが学校に関わり、子どもたちは多くの大人とふれあう中で、自分たちが地域に見守られていることを実感できたのではないかと思います。

先生や地域の方々との温かい交流の中で、子どもたちは思いやりと責任感を身につけています。山形小学校は、地域・家庭・学校が一体となり、安心して学び、のびやかに成長できる教育環境づくりを進めています。これからも「笑顔あふれる学校」「地域に愛される学校」として、未来を担う子どもたちの可能性を広げていきます。

常任委員 増塩 勝美



高学年・地域ボランティアによるわくわくクラブ



地域ボランティアによる月2回の読み聞かせ

特集 みんなだいすき 学校給食レポート Vol. 42

今回は広丘小学校の給食をレポートします。

広丘小学校の給食紹介

広丘小学校は、明治22年に発足した伝統ある学校です。児童数590人、職員55人、毎日約650人分の給食を栄養教諭の先生と7人の給食調理員で毎日とても丁寧に楽しく作ってくださっています。

毎月のメニューに「広丘の日こんだて」があります。栄養教諭の先生が工夫を凝らした、塩尻市や広丘地区にちなんだメニューが並びます。

9月の広丘の日
桔梗ヶ原の玄蕃の丼
牛乳 かおりびたし
塩尻産ナガノパープル



地元のお話玄蕃の丞、
狐にちなんだメニュー

10月の十五夜献立
いもくりごはん、
かぼちゃ団子のお月見汁、
おかかあえ、お月見ゼリー

季節の行事を
大切にしたいメニュー



季節を大切にしたい献立や地産地消にも取り組んでいただき、塩尻市内や地元の広丘地区でとれた野菜や果物を中心とした献立になっています。

給食だよりを見て、「今日もサイコー！」と毎日の給食をととても楽しみにしています。そんな美味しい給食を毎日食べられる子供たちは幸せだなと感じます。美味しい給食を提供して下さる、栄養士・給食調理員の先生方、食材提供していただいている農家の皆さん毎日ありがとうございます。自校給食を支えていただいている塩尻市にも感謝いたします。

常任委員 岩佐 麻貴

\\ 美味しい給食をありがとう！ //



特集「学校」「地域」の連携活動紹介 いっしょに学ぶ

コミュニティ・スクール活動紹介



ベルマークの分類に挑戦
西の子チャレンジタイム

塩尻西小学校コミュニティ・スクールは、西の大人（地域、保護者、学校職員）が力を合わせて、西の子の育ちを見守り、支えることを目指し、学校運営協議会等で対話をしながら、やってみたいこと、できることを考え、活動を進めています。

朝、校舎内で子どもを出迎え、教室に入るまでの支援を行う「おはよう先生」、放課後、子どもが興味・関心に応じて、やりたいことにチャレンジする「西の子チャレンジタイム」、放課後や長期休みに宿題等にいっしょにとりくみ、子どもの疑問や困り感に対応する「おさらい教室」など、地域の方

が子ども達に声をかけ、いっしょに活動に取り組んだり、子どもたちの相談にのったりしています。

休み時間を使い、自分の「好き」を思いっきり表現する「西小ライブ」は今年で3年目。西の大人が出演し、かっこいい姿を見せてくれることもあります。司会や機材操作も有志の子どもたちが参加しており、みんなで作るライブとして定着してきました。

学校が地域の方にとっても学ぶ場となるように始めた「西の大人の学校」。地域の方や学校職員が、経験や専門性を生かした講座を考え、開催しています。今年は、子どもを前向きに



西小ライブ
自分の「好き」を表現

する声がけを考える講座、PTA 活動について語り合う講座、脳の活性化について考える講座、給食試食と栄養について考える講座と企画してきました。さらに、新たな講座を計画中です。引き続き、できるときに、できる人が、できることをすることで、地域も学校も楽しく、元気になるように、活動を進めていきたいと思っています。

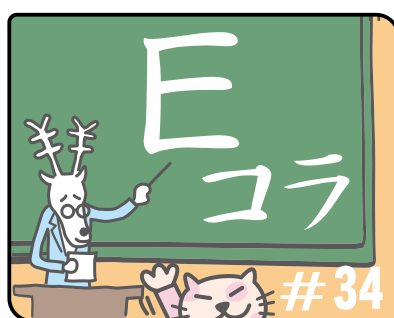
学校支援コーディネーター 堀籠 愛由
教頭 中村 聡士
担当 常任委員 篠田 主馬



西の大人の学校
子供を前向きにする声がけ



塩尻市立塩尻西小学校
児童数 309 名 (10月1日現在)
住所 塩尻市大門五番町
4 番 5 5 号



「橋を架け、つながり合うために」

塩尻市立広陵中学校 校長 小坂寿樹

10月の全日本PTA 関東ブロック大会第5分科会で早坂先生のご講演やパネルディスカッションのお話からPTAの意義やこれからに示唆をいただきました。“「多様性（バラバラ）×協働（ひとつに）」をもとにしながら「新しい価値（ワクワク）」を創り出していくことが求

められている、そのために「越境（境界をまたぐことで、気づき・協調・省察・変容をもたらす）」していこう”というメッセージを私は受け止めました。PTAに限らず、学校・地域・家庭も同じだと感じています。

コロナ禍を経て様々な変化があり、学校現場でも、様々な場面で「どうするか」を考えて判断していく時に、常に「何のために」という問いに向き合わざるを得ない状況がありました。それまでの「あたりまえ」が困難な場面になって、「あたりまえではない」ことに初めて気づかされたのです。

一番大きな課題として今も突きつけられているのは「学校は何のためにあるのか」という問いです。コロナ禍が契機になったことは確かですが、それがなくてもAIの進化などの社会変化の中では必然的に問われるべきことであつたのかもしれませ

ん。例えば、オンラインのリモート学習のみで学びが成立するのであれば、学校に子どもたちが集って行われる授業は必要ないかもしれませんが、でも、学校の教室や学校という空間で学ぶことには他に代えがたい意味があると思っています。

キーワードは「対話」であると考えています。「問い」をもとに、子どもたちが様々な背景や視点から語り合い、働きかけ合うことを通して、自分の「納得」をつかんでいく、そんな授業や活動が展開される場が学校であり、そこに「橋を架け、つながり合う」役割としての学校の存在意義があると思うのです。

家庭や地域の中での「対話」はいかがでしょうか。AIとは違う、AIにはできない「対話」「人間だからこそできること」があるのではと思います。

